

# 新発見資料紹介

## 山口仁道より吉野作造あて書簡案

「東京市本郷区駒込神明町三二七吉野作造氏郵便發 拝誦其の後は久しく御目にかかりませんでした。御健在の由大慶で有ます。私も六拾一才で有ます。相変らず蒐集に努めて居ります。昨年拾月式拾六日より表記の所への器搬送初め本年壹月拾式日迄から単独にて陳列、拾四日より開館仕候。間口七間奥行五間半の建物ですが例帳ラクタ物が豊富で全部陳列が出来んので遺憾です。成績がよかつたら段々増築せうと思ひます。賤息は拾七才で海軍志願、東京海軍経理学校選抜生で砲術水雷校を廻はり、青嶋の役に参加、戦後暇休となり引き続き横須賀海軍軍港に務部帳経理をやつて居ります。うるさき都会にて静養なさるよりは温泉にでも転地なされては如何。拙宅には自然温泉の浴槽も有ますから暖かになりましたら御出での上陳列品を御覧被下たく、先ずは御挨拶まで 拝復

昭和七年式月十八日誌

山口仁道

吉野作造様

（教育参考品陳列館と致ますたら皆が通りが悪るいから考古博物館としたがよからうとの衆議に依り、博物館とは笑止千萬）」

（読みやすいように句読点を付しました）

山口仁道（一九七二～一九四二）は吉野より六才年上の岩出山町の東陽寺住職であった。好奇心が強く几帳面で努力家という人柄で、最初は檀家のことを記すために始めたという克明な日記や書類が残されている。

吉野とは明治年間より交流があり、「自明治二六年至明治三二年」と記された「賜品簿」には吉野作造が三回訪れたことが記載されている。一九〇一年（明治三二）七月二五日には「手拭」を土産に盆の挨拶に訪れ、同年九月一日「中綿」一包みを土産に來訪、さらに翌年六月四日にも「湯巻木綿」等を持参して來訪したことが記されている。吉野は当時東京帝国大学生で、夏休みの際綿屋を営んでいた実家よりみやげ物を調達して訪れたのだろう。

書簡案からは、一九三五年（昭和七）一月に山口が鳴子町車場に開館した私立「鳴子教育参考品陳列所」の準備について、山口の息子薫の様子、そして当時身体を悪くしていた吉野に転地療養をすすめたことがわかる。まだ不明な点も多いものの、吉野と大崎地方の人との交流を示す貴重な資料である。

（山口順喜氏提供）

古川市に生まれた私の小中学校時代、古川で吉野といえば吉野信次のこと、作造を知る人は極めて少なかったようです。私の兄（故喜一氏）も作造を知らず、一九四九年矢内原忠雄との出会いの席で、同郷の偉人を教えられました。それ以後兄は、作造の文献を熱心に集め、その顕彰運動に参加しました。

私が吉野を研究しようと思ったのは宮城学院の社会科教師になってからでした。七〇年代学内外で民主化が叫ばれるなかで民主主義の源流に関心をもち、兄の影響もあってその集めた文献のなかの『故吉野博士を語る』を読み、その人間性に惹かれ、吉野作造の人と思想を多くの人に伝えたいと思いました。

また宮城県歴史教育者協議会の有志と吉野と地域のかかわりについて着目し、聞き取りを

始めました。今は亡き大友為三郎、三浦茂雄、澁谷榮太郎、三春重雄、加藤栄之丞の諸氏から吉野生前当時の貴重な証言も伺いました。これらの証言内容の報告や、吉野の宮城県における足跡の調査の報告を内容と

## 古川市史に吉野作造を執筆

ひろやす  
永澤 汪 恭 さん  
(宮城学院社会科教諭)に聞く



する『吉野作造通信』を八六年に創刊しました。今では国内はもとより中国、フランス、アメリカなど海外にも読者があり、人間吉野に魅せられた人々によって発行の支援がなされ、さまざまな交流の場となっています。

『古川市史』では、吉野作造と古川市の関係を市民に知ってもらいたい、また記念館ができるまでの歴史は古川文化史上重要だという思いから、吉野の生涯を古川市との関係で紹介し、また戦後の吉野作造顕彰運動史を執筆しました。戦後、吉野作造の顕彰に参集した古川の人々は「平和と民主主義」を主張した吉野の影響を受けて、実践した人々です。彼らの活動は吉野が古川に与えた影響を物語っています。

『吉野作造通信』に関心のある方は022(229)0534 永澤まで。

吉野作造関係記述は『古川市史 第五卷教育・文化』（税込3000円、三月三〇日発行）に掲載。当館でもお買い求めいただけます。